乳児保育所1・2歳児の運動遊びの実践と保育者の援助

黒岩英子・青山優子*

A Study of Physical Play Activities of One - and Two- year- old Children and Teacher's Assisting them in Day-Care Nurseries

Eiko KUROIWA and Yuuko AOYAMA*

Abstract

This study reported on the effects of physical play activities in a class called "Let's Exercise " held in day-care nurseries. We offered them many kinds of movements and played together with one-year-olds, one and a half-year-olds, and two-year-old-children. We used play instruments such as a balance bar, jumping box, mats, other play tools and big and small cardboard boxes. It was about thirty minutes per class from May to March last year. One-year-old-children imitated our activities at the beginning, but they found their favorite play activities by themselves after seven classes. Two-year-old-children played vividly together with their friends and teachers. We recognized that there are three aspects of teachers' help. One concerns the structure of the environment. The next thing concerns movement. It's important to do many things. The last thing concerns their minds. We and these nurseries set play instruments, and then we reset them matching their movements. We suggested methods of play to them. Also we helped them to do activities using play tools. We urged them to try difficult movements. We gave words of praise to them when we caught their movements or they found a new method of play. We watched them to be sure they played in safety. We were watching them to help as soon as they felt it was too dangerous.

Key words: play movement, play instruments, supporting children

1、はじめに

保育所実習における運動遊びと短大での運動遊びについて昨年の本紀要[1]に報告したが、実習中に学生たちは子どもの思いを受け止めながら遊ぶことに、困難を覚えていることが判明した。したがって短大の体育時に子どもの遊びについて、具体例をあげながら援助の仕方や展開の方法を講じる必要性があることを、確認した。

一方、保育所入所児の低年齢化が進行しているが、この時期は身体運動の基本が獲得される大事な時期である。それは，運動的な遊びによって大部分が達成されるといっても過言ではない。

では保育所の1，2歳児はどのような運動遊びができ、好むのであろうか。またその援助はどのようにするのが適切であるのか。この二つを解明するため乳児保育所での遊びを分析し考察することにした。

なおこの場合の援助は、子どもの発達を助長し、遊びの展開に作用する活動とし、広義[2]に用いる。

保育者の援助については、多くの研究や著述があるが、特に小川[3]の保育援助論や梅田[4]の遊びへの援助、金田[5]らの1歳児への受容が示唆に富むものである。しかし直接運動遊びに関するものではない。運動遊びに関しては、穐丸[6]や村岡[7][8]に研究を見出せる。前者は運動遊びに関する一般論であるが、後者は遊び意識に関する援助を論述しているものである。今回の我々の研究とは関連する面も多少は生じる。しかし1，2歳児を対象に様々の遊びに関して援助を究明した研究は見当たらない。

運動は大筋群が関与する身体活動とする。遊びについては本来自発的で、時間的にも自由であり愉悦を感じるものであるが、遊びの経験が少ない乳児で

*第一保育短期大学

あるため、すべてに適合しない面もあり、ここでは拡大解釈をしている。

今回は青山が実施しているレッツ運動（黒岩と数人の保育士も補助として参加）および、保育士による実践記録を研究の対象にする。

2、方　法

対象　北九州市内Ｒ乳児保育所１歳児前半クラス
　　１歳児後半クラス、２歳児クラス

場所　Ｓ寺本堂および保育所の園庭

年月　2002年５月～2003年３月、計11回

運動遊びの時間　毎月１回、２５分～30分

実践方法　青山が前回の記録を読み、見通しを持って活動を開始する。補助教員は青山と子どもの様子を見ながら遊ぶ。

3、実践経過と保育者の援助

A、運動遊びの実践経過について

まず11回実施した運動遊びについて、遊びの主な内容を１歳児の前半と後半および２歳児に分け表１に記す。

表１　運動遊びの実践経過

	１歳児（前半）	１歳児（後半）	２歳児
５月	＊段ボール箱で遊ぶ （保育者の動きを模倣） ・ステージで遊ぶ （よじ登る、腹ばいで降りようとする）	＊段ボール箱（大小）で遊ぶ （押す、入る、重ねる） ・巧技台、平均台で遊ぶ ・ステージやソファーに気付き上に上がっていく。	＊傘をさす真似をする ・ピアノに合わせ、亀・兎・かえるになって動く ・積木や平均台から飛び降りる
６月	＊段ボール箱で自由に遊ぶ ・跳び箱やマットの山で遊ぶ（保育者に誘われて動く）	＊段ボール・巧技台・跳び箱マット・大型ソフト積木で遊ぶ．（登る、はう） ・跳び箱にマットをかぶせた上をはい上がる	＊歌に合わせいろいろの動物になって遊ぶ ・「もういいかい」の声に反応し遊具などに隠れる ・走り回る
７月	＊段ボール・巧技台・マットで遊ぶ （保育士と大きな段ボール箱に入って乗り物に見立てて遊ぶ）	＊段ボール箱・巧技台・跳び箱・マットの山で遊ぶ ・マットの上の段ボール箱の中に立つ	＊巧技台・跳び箱・マット・大型ソフト積木で自由に遊ぶ ・ボールを使って遊ぶ （投げる、転がす、足で挟む）
８月	＊段ボールや大型積木で遊ぶ（押す、引く）	＊段ボール箱で遊ぶ（立ち上がる、ポーズをとる、腹ばいになってバランスをとる）	＊障害走競技用大型遊具で遊ぶ （運動会の練習を兼ねる）
９月	＊段ボール箱・巧技台・木製トンネルで遊ぶ （積み上げる、押したおす、斜面をつけたトンネルをはい上がり滑る）	＊詳細を表３に記す	＊かけっこ（座ふとんでコーナーを作る、運動会の練習） ・障害走をして体を動かして遊ぶ （ソフト積木と梯子のトンネルを組み合わせた障害物など）
10月	＊詳細を表２に記す	＊段ボール箱、ボールで遊ぶ （裏返しした段ボールの上から促されて飛び降りる、保育者と一緒に転がす、投げる）	＊巧技台、跳び箱、木製トンネルソフト積木、マットで遊ぶ （運動会後）
11月	＊段ボール箱・ボールで遊ぶ （転がす、保育者のする動きをまねる）	＊ボール・タイヤで遊ぶ （ボールをトンネルに転がすタイヤの上に立ち跳ねる）	＊詳細を表４に記す
12月	＊ボールや段ボール箱で遊ぶ （箱を裏に返し太鼓に見立てて、叩く）	＊園庭でタイヤで遊ぶ（タイヤの上をよつんばいではう、積み重ねたタイヤに登ったり穴の中に入ったりする）	＊園庭でタイヤで遊ぶ （タイヤの回りを走る、合図でタイヤの上に乗る、タイヤを積み重ねる）
１月	＊段ボール・大型積木・木製トンネルとマットの山で遊ぶ （走る、よじ登る、滑り降りる、飛び降りる）	＊巧技台・大型積木・マット段ボールを組み合わせて遊ぶ （遊具は子どもたちで運ぶ）	＊大型積木・巧技台・マット・跳び箱・木製トンネル・段ボール箱で遊ぶ ・竿で遊ぶ（保育士が持っている竿にぶらさがる、段ボール箱を跳び越して降りる）
２月	＊段ボール・新聞紙を使って遊ぶ （保育者の誘導する動きをする・放り投げる、ちぎって走る）	＊新聞紙で遊ぶ （ちぎる、跳ばす、ビニール袋に入れる）	＊新聞紙を使って遊ぶ（新聞紙を上に投げる、細かく裂く、丸めたり自由にちぎって走り回る、ビニール袋に散乱した紙を入れる）
３月	＊段ボールで遊ぶ （持って運ぶ、重ねる等自分で遊びを見つける） ・平均台やトンネルで遊ぶ（渡る、またいで座る飛び降りるなど積極的に遊び楽しむ）	＊段ボール・平均台・トンネル・跳び箱・鉄棒で遊ぶ （平均台の上や木製トンネルの中を段ボールを押して進む平均台を次々に運び、トンネルにつなげる．鉄棒にぶらさがり、箱を越して降りる）	＊木製トンネル・大型積木・巧技台・段ボール箱・棒で遊ぶ （自分たちで遊具の組み合わせを替え、遊園地のように見立てて自由に遊ぶ．木製トンネルの上を「順番よ」とかけ合いながら這う・介助されて逆上がりをする．

表2　1歳児（前半）の運動遊び

（1歳児13人・0歳児2人）10月9日（水）　9時45分～
場所　本堂　　担当職員3人

テーマ　・ボールや段ボールで遊ぶ

最近の子どもの様子

・10月よりオムツからパンツへと10人の子どもが切り替わり、トイレット・トレーニングが始まる。オムツが濡れていることもあるが、オツムでの排尿もタイミングよくできる回数も増えてきている。
・保育士の「○○するから○○に行こうね」などの言葉掛けや、一緒に行動することで理解し、流れにそって行動できるようになってきている。
・単語数も増えてきている。中には二語文から三語文も出る子もいて、保育士とのやりとりが、活発になっていている。

子どもの活動	環境の設定・保育士の援助	子どもが感じ、気が付いたこと
＊ボールで遊ぶ。	・ボールが入っている段ボール箱のふたを開けておく。	・ボールを投げようとしたが、投げる力がないのか落ちてしまい、おわてて追いかけていた。
・転がしたり、投げたりして追いかける。	・転がしたボールを「まてまて」と言いながら追いかけ、子どもの動きを誘う。	・S君がボールを両手で止め、置き直してその上にお尻をつけ、座ると2～3人が真似をしている。
	・子どもの遊びの様子を見ながら遊ばなくなったボールを少しずつ片付けていき、段ボール箱は子どもが見つけやすく出しやすい位置に置く。	・S君がバランスを崩し、後方に倒れそうになった時両手をついて、止めようとしていた。
・傾斜のついたトンネルにボールを投げる		・S君がボールをお腹の下に置き、両手を畳につけてゆらゆら揺れるのを楽しんでいて、2～3人の子も真似をした。
＊段ボール箱で遊ぶ。	・大きな段ボール箱を出して、トンネルに見立て、トンネルくぐりへと誘う。	・ほとんどの子が段ボール箱のトンネルの段差にぶつかると、段ボールを抱えて進んでいた。その時箱の中にボールが入っていると重くて抱えられないことに気付き、ボールを出して押し進んでいた。
・段ボール箱をみつけて運び出す。	・天上部分に少し傾斜をつける。	また、トンネルの中に他の子が置いていた段ボールがあると、抱えて出して通り抜けた子もいた。
・つぶれた段ボール箱に乗り保育士に引っ張ってもらう。	・つぶれた段ボール箱を魔法のじゅうたんに見立て、子どもがバランスを崩して倒れないようにゆっくり後方に引っ張っていく。	・よじ登ろうとしてつぶれた箱の上に子どもが乗ってきたため、とっさに「魔法のじゅうたんよ」と言ってみんなを乗せて引っ張り、本堂を3周した。

保育士の振り返り

・今回、初めてボールが活動の中に入る。ボール遊びは保育室でも行っていたが、ただのボールの投げ合いや転がし合いなどで終わっていただけの活動ではなかったかと反省する。
・また、ボールだけでなく、段ボールをプラスすると遊びにも展開が見られ、子どもの気付きから、遊びも広がってきたと感じる。私自身も子どもたちと一緒に遊びの中に加わることで、子どもが遊び出す姿をとらえることができるようになってきたと思う。
・見守ることも必要だが、一緒に遊び、見つけ出すことも大切な援助だと実感する。
・子どもに対しての言葉がけが、ワンパターン化していないか振り返り、子どもの心に届くように接し、活動をもっと楽しませたい。

表３　１歳児（後半）の運動遊び

（１歳児16人・欠席１人）９月10日（火）　10時20分～
場所　本堂　　担当職員３人

テーマ　・段ボール箱で遊ぶ

最近の子どもの様子

・運動会の練習も本格的に始まり、保育士の動きをよく見て真似をして踊ったり、笛の合図で走ったりする事を楽しんでいる。
・汽車ポッポになって歩くことにも慣れ、長い距離行進することができている。
・友だちへの関心が一層昂まり、遊具を媒介として、2～3人で関わることや、手をつないで楽しそうに走ったりする姿が伺える半面、遊具の取り合いでけんかが始まることも多い。

子どもの活動	環境の設定・保育士の援助	子どもが感じ、気が付いたこと
＊ダンボール箱で遊ぶ。	・大小様々な大きさの段ボールを無造作に配置する。 ・動きにあったBGMを流す。	・段ボール箱を目にしたとたん、嬉しそうに部屋中押して動きまわる。 ・今までの運動を覚えていて、保育士の声かけで動いたり、先の動きを行ったりしていた。
・押したり、引いたりする。 ・中に隠れる ・押しながらトンネルをくぐる。 ・よじ登って立ち上がる。 とび降りる。 ・ポーズをとる ・腹這いになってバランスをとる。 ・動く段ボール板の上で立ってバランスをとる。 ・段ボールの中に入って進む。	・遊びにスムーズに入っていく事ができない数名の子どもには、一緒に押したり、引いたりする事で、徐々に気持ちを盛り上げていく。 ・できるだけ保育士も一緒に子どもの側で同じ動きをして、やってみようとする気持ちになるようにする。 ・段ボールの上に立ったり、飛び降りたりバランスをとったりする時は、子どもが一人でやってみようとする気持ちは受け止めつつも、危険のないよう介助する。 ・バランスをとることは難しいので、ゆっくり引っぱる。又、足を広げ、身体全体でバランスをとる方法を知らせる。 ・「車庫まで運転しよう」と声をかけ、片付けも無理なくスムーズに行なうようにする。	・飛び降りる、バランスをとるなどは、一人ひとりが自分の運動能力に合わせた動きでやってみようとする姿が伺えた。 ・保育士から少し援助され難しい動きができると喜び、再度自分でタイミングを取ったり慎重に挑戦してみようとしていた。 ・引っ張られる段ボール板の上に立ち、バランスを取ることが難しい子は、すぐに座り込んだり、その場から離れる。 しかし座って引っぱってもらう事を喜ぶ友の姿を見て、仲間に加わる。 ・立ってバランスを取ろうとする際、膝を曲げ低い姿勢になっていた。

保育士の振り返り

・前回提案して頂いた遊び方を、今回は段階を追いながら、テンポよく経験していった。
・前回と比べ、保育士の言葉かけだけで、戸惑わずに動くことができるようになってきたと感じる。
・運動能力に個人差があるものの、一人ひとりが好きな遊びを見つけ、楽しんだり挑戦しようとする姿を見るといかにこの段ボールを使った遊びが、子どもたちにとって魅力あるもので、意欲をかきたてられるものであるかが分かる。
・青山先生は、子どもは心拍数がある程度上がるくらい動かなければ、遊びに対する満足感は得られないのだと言われていた。

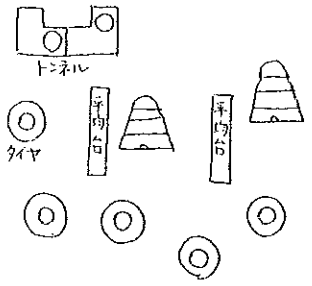
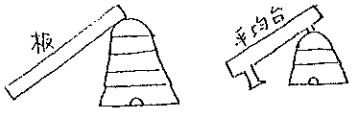
表4　2歳児の運動遊び

（2歳児14人）11月12日（火）　10時45分～11時25分
場所　園庭　　担当職員2人

テーマ　・タイヤ、滑り台（板）、跳び箱、平均台、トンネルで遊ぶ

最近の子どもの様子

・箸の移行に入り、以前より食事の時間はかかっているが、食欲旺盛でおかわりをして、よく食べる。
・部屋で自由遊びをする際、走り回ったり、跳んだりし、じっとしていることが少なく、エネルギーがあり余っている様子である。

子どもの活動	環境の設定・保育士の援助	子どもが感じ、気が付いたこと
＊タイヤ、跳び箱、平均台、トンネルで自由に遊ぶ。	・いろいろな遊具を無造作に配置する。  	・あまりなじみのないタイヤを好み、ほとんどの子がタイヤを手にし、遊具の間を器用に転がす。 ・二人だと気づくと二人組みで抱えたり歩いたり引きずって地面にできる模様を楽しんだりしている。 ・2個のL型トンネルを単独にしている時は出たり入ったり一人遊びだったが、くっつけて1つにすると、友だちとの関わりが見られ頭を出したり、引っ込めたりして、かくれんぼを楽しんでいる。
＊板のすべり台で遊ぶ。 ＊平均台を後ろ向きに滑ったり、飛び降りて遊ぶ。	・高さの異なる遊具を組み立てて活動するため、必ず側に保育士がつき、危険がないよう見守りながら、介助していく。  2人で補助	・初めは板のすべり台をしゃがんだり、寝そべったりして滑っていた。しかし徐々に動きが大胆になり、立ってリズムをつけて駆け降りたり、3～4回跳びはねて降りたりした。自分の運動能力を考えて遊びを展開している。 ・平均台にまたがり、下から上に手だけ使って進んでいくのは難しいと分かるとそこで止める子が多かった。 ・上から下に進むように指導すると、体を平均台にうつ伏せにしてどんどん下に降りることができている。

保育士の振り返り

・今回初めて戸外（園庭）での活動になり、部屋の中とは又違ったエネルギッシュな子どもたちだった。
・重いタイヤを抱えるなどの力を使った遊びが戸外では十分にでき、子どもたちもそういった運動を要求しているのだと実感した。
・青山先生にマラソンをして転ぶ子が多かったことを相談すると、靴の問題もあるが、斜面を歩いたり、駆け上がったりの運動を取り入れることなどの助言を頂いた。

B、保育者の援助について

次に保育者の援助に関する事柄を類別して列記していく。

類別は保育学会時に発表したものを使用する。この類別は、まず援助に関する事柄を挙げ、次に共通項で括っていくという方法をとった。

1）環境に関すること

① 段ボール箱を無造作に置いておく。

② 用具を置く。用具を補充する。

③ 遊具を組み合わせる。組替える。固定する。

④ 大きな段ボールを壊し、トンネルに準備する。

⑤ 子どもと一緒に片付ける。

⑥ 段ボールを縦に並べ汽車に見立てて、遊びの延長で片付けを楽しく行えるようにする。

⑦ タイヤを段差をつけながら積み上げる。

⑧ 遊びの道具になる（両足を開いて立つ）。

⑨ 遊びの小道具を作る（新聞紙を破って渡す）。

⑩ 遊びの道具を作る（棒を二人で持ち、即席の鉄棒を作る）。

2）運動に関すること

① 動きを誘う言葉（○○ちゃんおいで）をかける。

② 段ボール箱を押して楽しんで見せる。

③ 泣いて遊びだせなかった子どもと一緒に段ボールに入って、「ガタンガタン」「ブッブー」と乗り物に見立てて遊ぶ。

④ 「わあーすごいすごい」と言って、遊びを盛り上げる。遊びが盛り上がるように保育士が積極的に遊びに入っていくようにする。

④ 子どもが崩した段ボール箱を、すばやく積み上げ、子どもが再度押し倒して遊ぶ楽しさを味わえるようにする。

⑤ 本堂に、はいはいをして入って来る子どもたちに「かめさんね」と言って、保育士もかめの真似をし動きを受け止める。

⑥ 動きの手本を見せ、子どもたちの動きをひきだしていくようにする（足と足の間にボールを挟んだり、足の上を転がす等）。

⑦ 子どもの表現の豊かさや動きを見て、イメージを膨らませるような言葉をかける。

⑧ 段ボール箱を太鼓に見立てて、子どもと一緒に叩いて楽しめるように、保育者自身が表現豊かにリズムをとりながら歌い、叩くようにする。

⑨ 押し合いにならないように、順番や代わりばんこなどの声かけをしていき、危険のないように見守る。

⑩ 箱の中に入っている子を、乗り物のようにし動かして遊ぶ。２～３人の子どもを入れて押す。

⑪ 「もういいかい」の声かけにより、段ボール箱の中に入り隠れるように、仕向ける。

⑫ 裏返しした段ボール箱に腹ばいになっている子に、「アンパンマーン」と言って手足を伸ばしてバランスを取る様に知らせる。

⑬ かえるの歌のピアノを弾き、歌にあわせて裏返した段ボール箱を叩くように誘導する。

⑭ 「かえるになって」と声をかけ、裏返しした段ボール箱の上から飛び降りるように促す。

⑭ 子どもの要求に応じて、転がしあったり投げあったりして、一緒に遊ぶ。

⑮ 箱を保育士が腰の位置に持ち、「シュート」と言って、投げ入れるように仕向ける。

⑯ タイヤでどのように遊んだらいいか戸惑っていたため、実際にいろいろな運動を行って見せる。

⑰ 子どもたちの展開にあわせ、段ボール箱を揺らすなど、少々危ないと思える補助をしてみる。

⑱ 子ども自身が遊びを見つけ、遊びが広がっていくように、さりげなく手助けする。

⑲ 大きなビニール袋に遊び散らかした紙を集めて入れるようにし、袋の表と裏に笑った顔と泣いた顔を書き、子どもたちに名前を付けようと誘う。

⑳ “ドラエモン”と名前がついたビニール袋を保育室に持ち帰り、「ドラエモンが今日一日子どもたちの様子を見ているよ」と話す。

㉑ ぶら下がる時間を少しでも長くし我慢できるように　下にスポンジ積み木を置き、保育士がその上を端から端まで子どもを運ぶ。

㉒ 懸垂力のある子どもには、タイミングをとり、軽くお尻をあげ、逆上がりをさせてみる。

㉓ 危険がないように見守ったり、側についたりできないところを補助する。

㉔ 保育士の足の甲に子どもを乗せたり、ひざの上で前転をしてやって遊ぶ。

㉕ 動作を大きくしたり、小さくしたりなど、楽しそうにしてみせる。

㉖ 逆方向からきている子どもには、「ぶつかるよ、お友だちどっちにならんでる」など声をかけ気づかせていく。

㉗ 危険がないように見守ったり介助したりしながら、保育士も一緒に遊びに加わる。

㉘ 子どもに「竿をしっかり握ること、段ボールのところにきたら、足をまげて飛び越すこと」を言う。

3）心情に関すること

① 遊びに参加していない子にたいし、保育士と一緒に参加していくことで、一人ででもしようとする気持ちを起こしていくようにする。

② 新聞紙を広げて、放り出したり受け取ったりして遊び、子どもたちが興味を持つようにする。

③ 子どもが援助を求めてきたときは、その子の能力にあわせて行うようにし、満足感を味わわせる。

④ 沢山の子どもが集まり込み合う場面でも、必要以上には声をかけず、子どもが自分で考えたり動いたりする様子を見守る。

⑤ 一人ひとりの興味や発達状況を把握し、安全に気を配りながら、全身を使って運動する満足感を味わわせる。

表5　保育者の援助

	援　助　内　容	1歳前半	1歳後半	2歳
環境面	遊具を配置する	◎	○	△
	組替え・組み合わせる	○	◎	◎
	片づける（子どもと共に）	△	◎	○
	遊具の代わりをする	○	△	△
運動面	遊びを誘導する	◎	○	△
	運動を見せる	◎	△	△
	動きを誘う	◎	○	○
	運動を教える	◎	◎	○
	一緒に遊ぶ	◎	◎	△
	動きを見つけ出す	○	○	○
	補助・介助する	△	◎	◎
	見守る・側につく	△	○	○
心情面	受容し承認・賞賛する	◎	○	◎
	共感し満足感を与える	△	◎	◎
	激励し意欲を喚起する	△	○	◎

◎ 多い、○ やや多い、△ 少ない

あそびの実践経過と保育者の援助については、表２～表４において、その関連がわかる。つまり子どもの活動の様子を見ながら実に適切に、しかもさまざまの方法で行っている。

表２より保育者は、動きを誘う言葉を発し、遊具を加え環境を再構成し、子どもの気づきを待ちながら、一緒に遊ぶ楽しい時を共有している。つぶれた段ボール箱を魔法のじゅうたんにして遊ぶという展開などは、共に遊ぶ中から発生した援助の典型ともいえるのではないだろうか。

表３より保育士も一緒に段ボールを持ち上げたりなど、子どもと同じ動きをすることにより、子どもの気持ちを活動へと誘っていることから、同じ運動をするということも、援助のひとつといえよう。この例は援助項目２）の⑤にも見られる。

また、気持ちを受けとめながら、危険のないように介助することも大事な援助である。そして気持ちを汲み片付けも遊びの延長にしたことも援助である。場合により運動の要領を教えることも大事であり、子どもの自発性を待つことに偏よらないことも重要であると考える。

次に表４から分かることは、１歳児の援助と共通な点が多いことである。しかし高さの異なる遊具を組み立て子どもの能力に応じて、エネルギッシュな活動を導いている。重いタイヤを抱える等という力を使った遊びを戸外で十分に発揮させたという広い意味の援助がみられるといえる。

遊びの経過からみると、５月頃に保育者が遊具を組み立てていたが、２・３月には子どもが自主的に遊具を組換え、主体的に遊ぶようになっている。この頃の保育士のふりかえりには、子どもたちがレッツ運動を楽しみに待っている姿が見られるようになったとある。

保育者の援助の方法を総括すると、１歳児には体や運動により直接的に行っているが、２歳児に対しては言葉での援助を行っている。このことは、当然ではあるが子どもの運動発達や言語の発達に適切なことである。

4、おわりに

基本的な動作を獲得する乳幼児期の運動遊びとして、遊具を使って遊ぶことは、一般に知られているように有効である。中でも段ボールを使用することは、形状が変化するため多様な遊びが楽しめ発展性もあることが分かった。この段ボール遊びについてはさらに詳しく追求する課題も見えてきた。それは遊びの中で見られた年齢による遊び方の違いについてである。

また子どもたちが安心して運動遊びを楽しむためには、広さが確保され思い切って活動できる場が確保されることである。本堂は１・２歳児の遊びの場として適切であった。

子どもが自発的に遊びを楽しめるようになるためには見通しを持った保育者の各方面からの援助が不可欠である。子どもが自ら遊びを見つけ集中して遊ぶことができるということは、ひいては生きる力につながっていくのではなかろうかと考える。

（2003年10月1日受理）

この報告は2003年5月　日本保育学会第56回大会おいて、口頭発表したものを修正し、大幅に加筆したものである。

最後に、実践と研究の場をお与えになったれんげ乳児保育所の園長先生をはじめ、多くの関係の皆様に感謝の意を表します。

文　献

1) 黒岩英子：保育所実習における運動遊びと短大における体育時の運動遊び，西南女学院短期大学研究紀要第49号2003.1
2) 岸井勇雄：保育における指導概念の研究　保育学研究 1992　日本保育学会
3) 小川博久：保育援助論（8）保育の実践と研究 3-1 相川書房　1998.6
4) 梅田優子：子どもの遊び世界への保育者の援助についての一考察　保育学研究 41-1，2003 日本保育学会
5) 金田利子・諏訪きぬ：1歳児の個々の要求とその受容 保育学研究　1992 日本保育学会
6) 穐丸武臣：幼児の運動遊び　子どもと発育発達1-3 日本発育発達学会編　2003
7) 村岡真澄：運動遊びにおける幼児の遊び意識の発達と保育者の援助（1）鬼遊びの場面で　愛知教育大学　幼児教育研究　第4号 1995．3
8) 村岡真澄：運動遊びにおける幼児の遊び意識の発達と保育者の援助（2）ボールとの関わり　愛知教育大学 幼児教育研究　第6号 1997.3